

## 資料1 本県の家庭科の在り方(活性化方策)

### 1 本県の家庭科設置校と募集定員

#### (1) 本県の家庭科の設置状況についてこれまでの経緯

昭和 22 年の新教育制度発足により、それまでの女子教育として位置づいていた「家事裁縫」は教科名称・目標・内容ともに改められ、新教科「家庭」が創設された。

本県の家庭科及び家政科設置校数は昭和 37 年度 10 校(併置含む)をピークに、その後、普通科と併置していた家庭科・家政科で順次募集が停止され、設置校数は減少し、昭和 63 年には設置校が 5 校となった。また、同年 11 月に「高等学校の職業教育に関する研究委員会」より報告された「本県のこれからの家庭科教育の在り方について」において、家庭科の募集定員が全国に比べて高い比率にあることや志願者が少ないことから「より一層の適正化を図っていくことが必要」とされ、普通科と併置していた家政科が順次募集停止となったため、平成 3 年度の家庭科設置校は 2 校となった。その後、平成 8 年度に唐津南高校に家庭科に関する学科である「生活教養学科」が設置され、現在に至っている。

《参考：家庭科・家政科の設置校、募集定員、学級数の推移》

	昭和37年	昭和47年	昭和57年	昭和63年	平成3年	平成8年	平成24年
家庭科・家政科 設置校(校)	10	6	6	5	2	3	3
募集定員(人)	745	630	630	547	360	360	240
学級数(クラス)	15	14	14	12	8	9	6

#### (2) 平成 24 年度の家庭科設置校

平成 24 年度の状況は、家庭科の単独校 1 校、農業科と家庭科の併置校が 1 校、商業科と家庭科の併置校が 1 校となっている。

#### (3) 平成 24 年度の家庭科の募集定員

家庭科の募集定員は、家庭科単独校 160 人(4 学級規模)、農業科または商業科との併置校では、家庭科の募集定員は、ともに 40 人(1 学級規模)であり、県全体では 240 人である。

## 2 家庭科の状況と課題及び活性化方策案

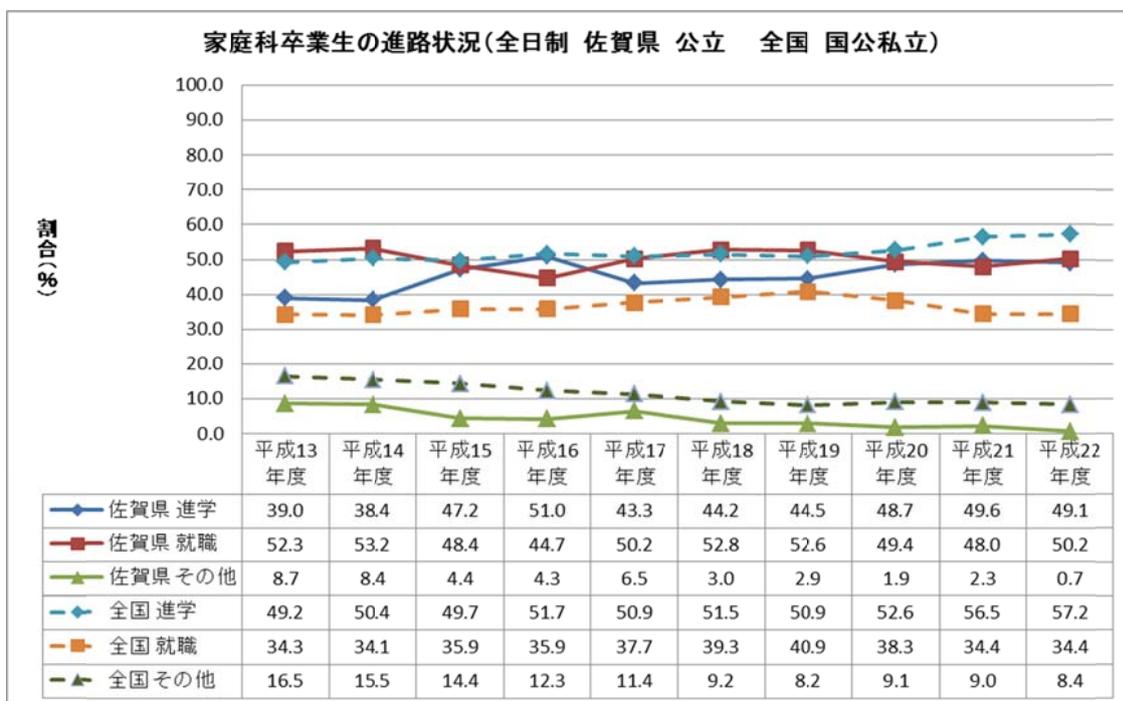
(高校教育改革プロジェクト会議報告「県立高等学校の活性化に係る検討状況について」より一部抜粋)

### (1) 家庭科の状況

- ・ 志願倍率

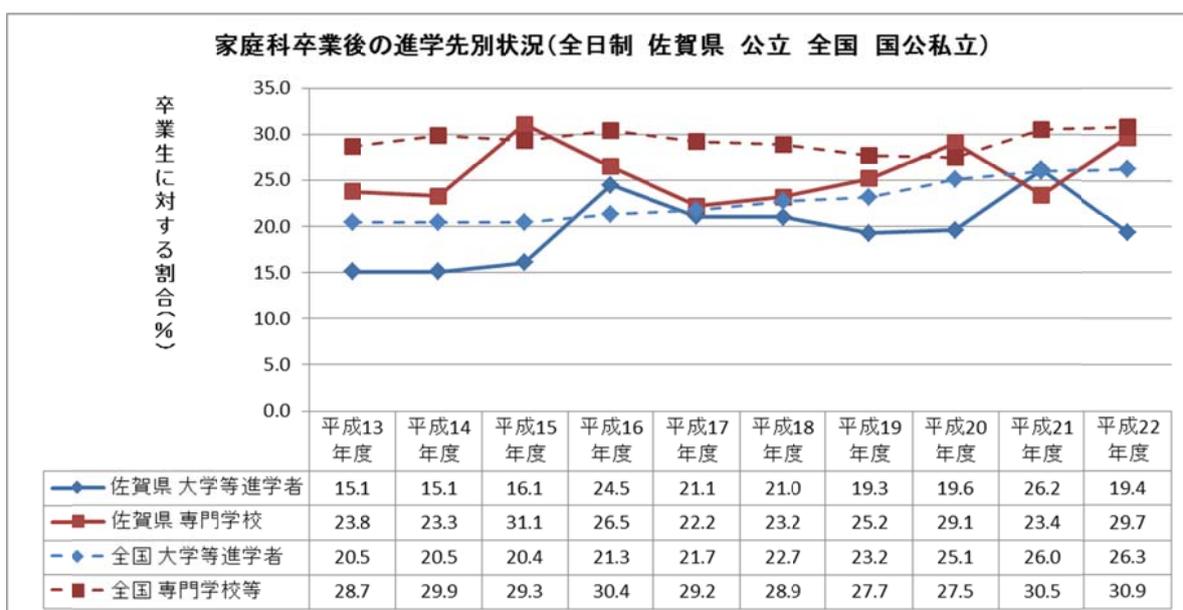


- ・ 卒業後の状況



- ・ 高等学校での学習を生かした資格取得（保育士、介護福祉士、看護師、栄養士等）を目指し、大学や専門学校へ進学する生徒が増加している。

- ・ 外部人材の活用による起業家教育に積極的な学校もある。
- ・ 地域貢献・地域連携活動によって、生徒は達成感を得、学習意欲の一層の喚起につながっている。
- ・ 調理師の資格を取得した生徒は、「食」に関連する仕事に就いている。



○ 主な課題

- ・ 地域を支える職業人育成を目指しているが、生活関連産業界のニーズを把握することが難しい。

○ 活性化方策案

・家庭科については、地域を支える職業人育成を目指し、衣食住、保育、福祉等、生活関連産業界のニーズを把握するため、産学連携を検討するとともに、学科の中心校を設定し、他の学校とのネットワークを構築することによって、家庭科教育に関する研究・開発の成果を還元・共有する必要がある。

・なお、牛津高校の食品調理科食品栄養コースと調理師コースについては、両コースの持つ特色を明確に示し、教育内容により一層特色を持たせ、卒業後の進路に対応した専門性の高い指導を効果的に行うため、平成 25 年度より、食品調理科食品栄養コースを新たにフードデザイン科、食品調理科調理師コースを新たに食品調理科とすることを、本年 4 月の定例教育委員会で決定している。

フードデザイン科は、「食」を総合的にコーディネートする能力や態度を育み、食育推進のために地域との交流を積極的に取り入れ、食生活アドバイザーや食育インストラクターとなる生徒を育成することを、新しい食品調理科は、調理師コ

ースで行っていた教育を更に充実させ、調理業務または食品関連産業に従事する人材を育成することを目的としている。

**【他都道府県における活性化方策の例】**

- 専門教育の手法について研究を推進し、県全体の専門教育のレベルアップを図るため、拠点校を設置する。(千葉県)